

野菜の作業 梅雨明け後はダニなどの害虫が増加します。
畑をきれいに・夏バテせずがんばりましょう！

樹の栄養状態の判断

開花位置で判断：ナス



茎葉の形で判断：トマト



【追肥実施の判断と追肥量の目安】

トマト

第1回目の追肥は第3～4果房の開花期に行いますが、生長点から10～15cmあたりの葉の巻き具合や茎の太さで判断します。

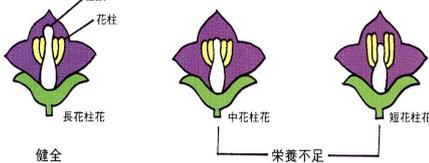
左の図のように葉がお皿を伏せた程度の曲がり具合で葉の色も濃くみずみずしい状態では栄養状態が良いと判断できますが、葉柄が細く節間が間延びし葉がバンザイしたようなY字型で色があせたような状態は栄養不足とい

えます。

ナス

ナスの追肥は、1番果の収穫時期から行いますが、上の図のように花より先に葉が4枚以上展開し、右ページのように長柱花（雄しべより雌しべの方が長い花）が多い場合は健全な状態と判断できますが、葉の枚数が少なかったり、花が小ぶりであったり、また、雌しべが雄しべより短い花が多い場合は栄養不足といえます。

ナスの栄養診断



キュウリ

キュウリは、収穫始めの頃から定期的に追肥を行いますが、下の図のような不良果（曲がり果、尻細果、くくれ果など）が増加した場合は、追肥を行うとともに摘果などにより株の負担を減らし、草勢の回復を図ります。

また、少量づつでの多回数かん水に心がけましょう。

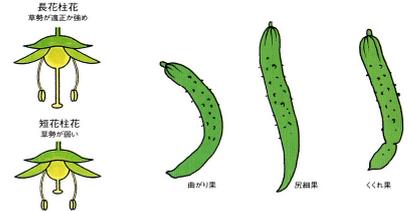
ピーマン

ピーマンの草勢は生長点付近の様子で判断しますが、生長点付近の節間が短く葉が小さくなり、そして生長点近くで花が咲き、右の図のように短花柱花が多くなると栄養不足といえます。

一般的に収穫最盛期に入ると草勢が強すぎになることはほとんどなく、追肥が必要となります。

花の形で判断：ピーマン

キュウリの異常果



1回あたりの一般的な追肥量の目安（窒素の成分量で表示していますが、成分割合が例えば10%の化成肥料ではこの10倍が施用量になります。）

品目	10a当り追肥量	a当り追肥量	1株当りの追肥量（目安）* 追肥の標準的な間隔 [標準的なa当りの定植本数]
トマト	3kg 内外	0.3kg 内外	1.2g～1.3g/株 * 1週間～10日間隔で。 [240～250本/aとした場合]
ナス	3～ 5kg	0.3～ 0.5kg	4g～5g/株 * 10日程度の間隔で。 [80～100本/aとした場合]
キュウリ	3kg 内外	0.3kg 内外	3g～3.3g/株 * 5～10日間隔で。 [90～100本/aとした場合]
ピーマン	3kg	0.3kg	1g～1.3g/株 * 10日～2週間間隔で。 [240～250本/aとした場合]



農業豆知識

土壌の基礎知識(第3回)

組合員の皆さんは、毎年土壌診断をされていると思います。今回は土壌診断の結果から解りにくい項目について説明します。

リン酸吸収係数・・・リン酸は水による流亡が少なく、土壌に最も固定される性質を持っており、土壌がリン酸を固定する度合いを示すことを表します。この値が高いほど余分にリン酸を施用する必要があります。

CEC・・・肥料を保持する大きさを表します。カリや苦土・石灰など塩基と呼ばれる肥料については、陽イオンの形で土壌に存在します。一方土壌中にはマイナスに帯電している部分もあります。CECは、土壌中に粘土や腐植が多いと大きくなる傾向があります。

主な丸子地区の土壌である灰色低地土の平均値は17.0前後です。

塩基飽和度・・・CECに対して実際何割程度の陽イオンが土壌中にどの位蓄えられているかを示す値です。陽イオンは、カリや苦土など種類によって重さが違うので、塩基がそれぞれの含量を測定してそれを換算して計算します。土壌診断では、塩基飽和度はおおむね80%が適正とされています。

ネギのさび病対策「葉切り法で芯をのばして」

さび病を防ぐには、薬剤散布、石灰窒素等の防除ですが、6月20日付信毎「初心者からの家庭菜園」著者山宮君夫さんの記事を紹介いたします。山宮さんが勧めてしている方法が「葉切り法」です。6月下旬～7月中旬に地上部の葉より5～10cm上の葉身を鎌で切り取ります。1週間から2週間くらいで芯が伸びてきて勢いよく育ちます。但し枯死寸前のネギには行いません。

葉切り直後



(引用 信濃毎日新聞 初心者からの家庭菜園3 山宮君夫著)

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力: 上小農業改良普及センター
地域係 近藤普及指導員(25-7156)